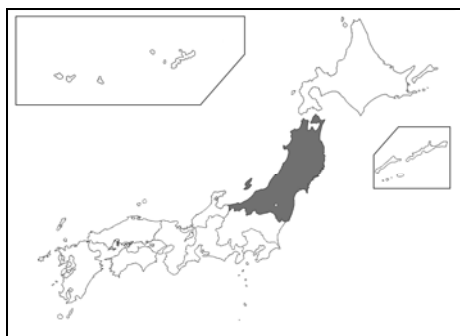


(2) 東北



東北地域では、景気は緩やかな回復基調が続いているが、このところ一部に弱さがみられる。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、このところ足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(―は上方に変更、―は下方に変更)

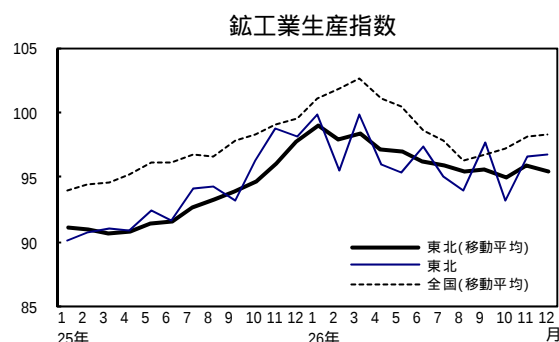
前回調査からの主要変更点

	前回(平成26年11月)	今回(平成27年2月)	
鉱工業生産	このところ弱含んでいる	おおむね横ばい	↑
雇用情勢	改善	着実に改善	↑

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は、おおむね横ばいとなっている。

10～12月期には、電子部品・デバイスは、シリコンウエハ及びサーミスタがスマートフォン向けの生産が好調だった影響などから増加した。はん用・生産用・業務用機械は、医療用カメラが生産設備の増強があった影響などから増加した。食料品・たばこは、酒類が減少した。情報通信機械は、デスクトップ型パソコンが企業向けに好調だった影響などから増加した。輸送機械は、乗用車が国内需要の落ち込みに影響を受けたことなどから減少した。



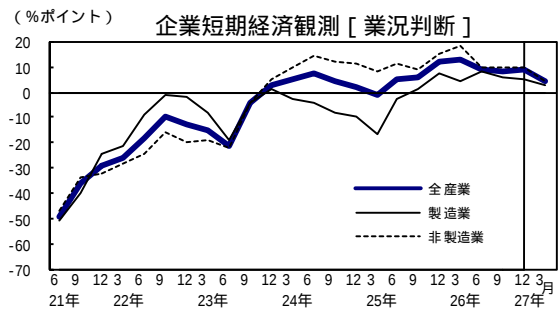
(備考) 1. 22年=100、季節調整値。東北の最新月は速報値。
2. 全国及び東北の太線は後方3か月移動平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

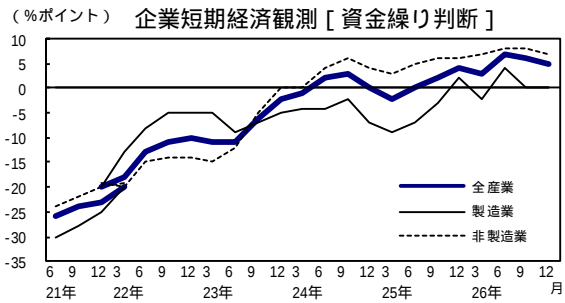
	付加価値 ウェイト	生産				
		7～9 月期	10～12 月期	10月	11月	12月
電子部品・デバイス	16.9	1.9	0.3	▲3.4	3.4	0.6
はん用・生産用・業務用機械	14.7	2.3	3.6	▲14.9	15.7	▲4.8
食料品・たばこ	10.6	▲5.3	▲3.9	▲4.7	▲0.8	0.5
情報通信機械	9.2	▲3.2	0.1	▲15.6	13.6	20.5
輸送機械	8.3	▲1.7	▲0.5	▲2.4	3.0	▲0.7
鉱工業	100.0	▲0.7	0.0	▲4.6	3.6	0.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 10～12月期、12月は速報値。

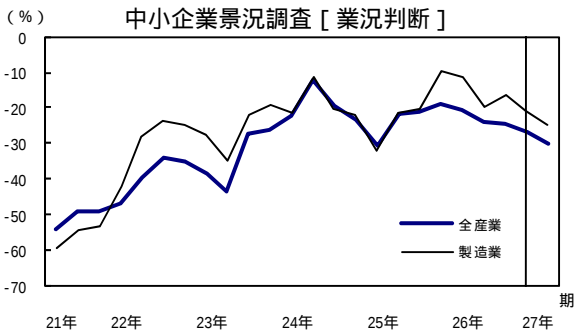
(2) 業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。27年3月は予測。



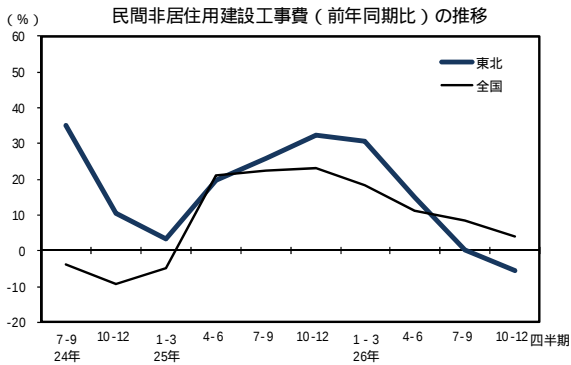
(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。27年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]
「販売量が増加傾向にあり、給与、福利厚生に好影響を与えつつある(電気機械器具製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は減少している。



企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]
(前年度比、%)

	25年度実績	26年度計画
全産業	▲8.2	3.9(▲5.2)
製造業	▲18.3	24.9(▲0.4)
非製造業	3.8	▲15.7(▲11.1)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。

2. 需要の動向

- (1) 個人消費は、持ち直しの動きが続いているものの、このところ足踏みがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10月は前月比0.4%増、11月は同0.1%増、12月は同0.5%増となった。

大型小売店販売額

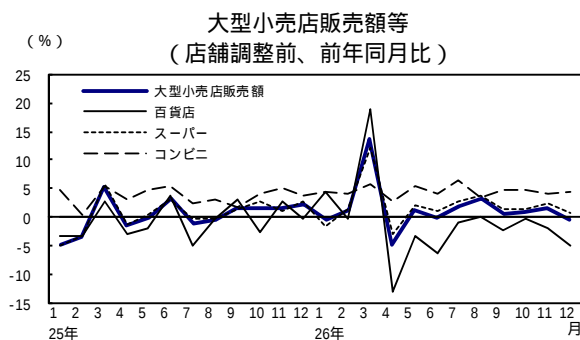
百貨店は、10月は、総菜や菓子などが好調で飲食料品は前年を上回ったものの、衣料品は、ジャケットなどの秋冬物衣料や寝具などがふるわず前年を下回った。11月は、お歳暮や物産展などが好調で飲食料品は前年を上回ったものの、衣料品は、コートやセーターなどの冬物衣料や呉服、寝具などがふるわず前年を下回った。12月は、平年より気温が低かったものの、コートやセーターなどの冬物衣料がふるわず衣料品が前年を下回ったほか、飲食料品もお歳暮やおせちなどがふるわず前年を下回った。

スーパーは、飲食料品は前年を上回ったものの、秋物衣料や冬物衣料がふるわず衣料品が前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (1月) [家計動向関連 (現状)]

東北地域の家計動向関連DIは、42.5 となり前月より1.2ポイント上昇した。

「消費税増税による買い控え、正月の天候不良による来客数の減少などがあったが、ここに来てフリー客が若干戻ってきている。また、買物の仕方からも、財布のひもが緩んでいる、もしくは消費税増税に慣れてきている様子であり、販売量はそこそこ戻りつつある (観光名所)」など、「やや良くなっている」とする回答が増加した。

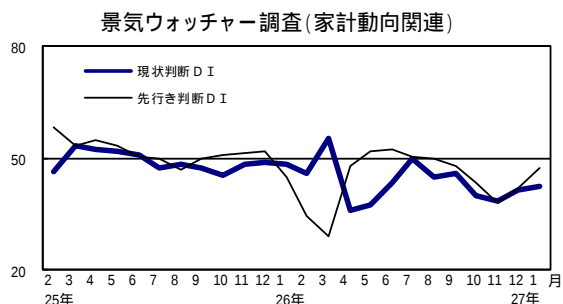
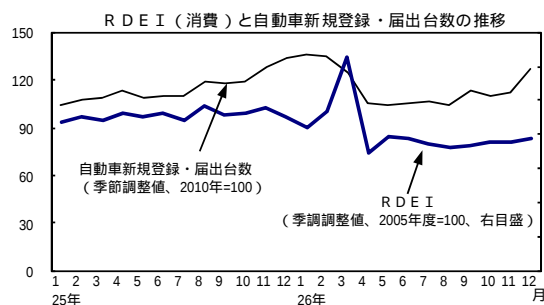


	26年10-12月	26年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	0.7	0.4	0.1	0.5
大型小売店(*2)	0.6	1.0	1.6	▲0.4
百貨店(*2)	▲2.7	▲0.3	▲1.9	▲4.9
スーパー(*2)	1.4	1.3	2.4	0.7
コンビニ(*2)	4.5	4.8	4.2	4.5
乗用車(*3)	▲8.8	▲9.0	▲13.4	▲3.2
(季節調整値)(*3)	7.6	▲3.6	2.5	13.6

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

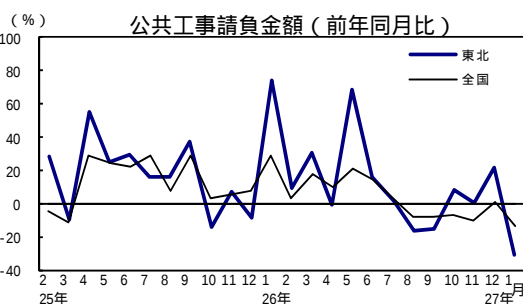
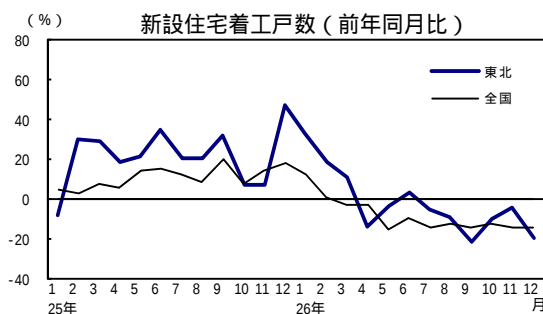
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



- (2) 住宅建設は大幅に減少している。

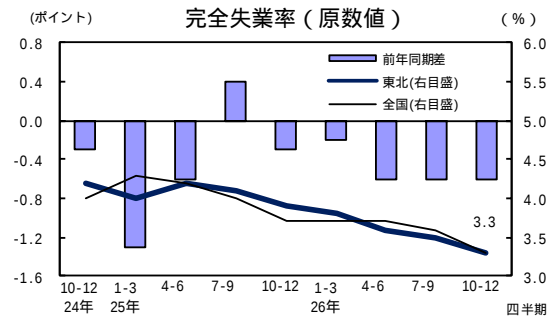
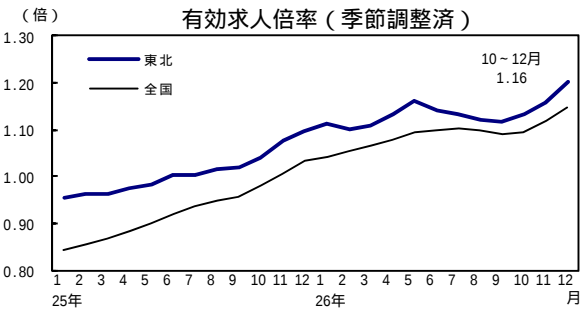
分譲が前年を上回ったものの、持家、貸家が前年を下回ったことから、全体では大幅に減少している。

- (3) 公共投資は26年度累計でみると前年度とほぼ同水準となっている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は、着実に改善している。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。

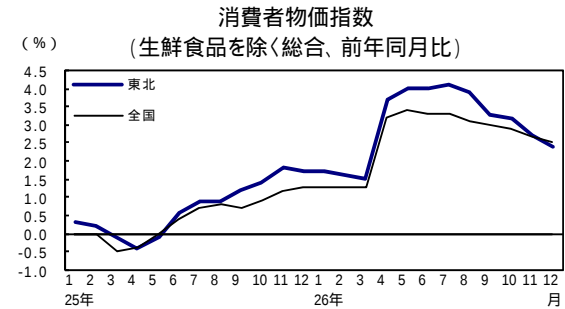


景気ウォッチャー調査（1月）[雇用関連（現状）]
「介護、販売員などのあまり応募希望者がいない業種を除き、求人募集は増加していない（職業安定所）」などの回答がみられた。

- (2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。
(3) 消費者物価指数は、前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	26年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	27年1月
倒産件数	117	111	112	97	31
(前年比)	▲7.1	▲5.9	▲0.9	▲19.2	▲20.5
負債総額	156	200	328	196	79
(前年比)	▲41.2	▲33.1	67.8	▲10.2	39.2



- 景気ウォッチャー調査（1月）[合計（特徴的な判断理由）]
<現状>
・3か月前と比べて、各種商品、特にラーメン、粉類商品が値上がりしており、客の節約志向が強くなり買上点数が減少している（スーパー）。
<先行き>
・来客数としては、春先へ向かう高揚感とともに個人客の利用が増えるとみている。また、ガソリン価格の安値も行動範囲を拡充する要因となり、宿泊を伴う県外個人客の動向にも期待出来るのではないかと（都市型ホテル）。

